

# High Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん！

## 若林区まちづくり協議会会報

2000.05.15 Vol. 1



▲4月16日、陸奥国分寺薬師堂で行われた「桜まつり」（若林区連合商店会主催）

### 若林区まちづくり協議会が新しくスタート

「新しい杜の都づくり若林区協議会」は平成12年4月より「若林区まちづくり協議会」として新たなスタートを切りました。この協議会は、区民一人ひとりの創意と参加により、住みよい魅力のあるまち若林区をめざし、行政との協働によるまちづくりを目的としています。

地域の活性化、環境問題、健康増進と青少年の健全育成、高齢化問題など、魅力あるまちづくりを進めるためのテーマに沿った検討を行い、地域一体となった課題解決に取り組みます。

### ■はいらいん若林の役割

地域の課題に関する  
情報交換の場

地域の  
ネットワーク

協議会活動のPR

区民への問題  
提起の場

新しい杜の都づくり市民協議会が解散となり、各区内のみ組織を残すことになりました。これを機に若林区では検討を重ね「若林区まちづくり協議会」と改称しました。21世紀に向けて若い世代の方々と共に協力し合い、行政のご指導をいただきながら、地域の特性を活か

した施策を取り入れ、若林区の益々の発展と協議会の充実を期して参りたいと存じます。区民の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、若林区まちづくり協議会会報第1号の発刊のご挨拶とさせていただきます。



若林区まちづくり  
協議会会长

山田 仁策

ごあいさつ

**性格の全く違う姉妹へ**

高校と中学の二人の娘がおりますが性格が全く違います。自分のときもそうでした。環境、育て方にもよるのでしょうか、生まれ持った資質があるのではと思います。私自身は考えてみると、知らないうちに親の希望通りに歩んできたという気がはなく、良い所は良いと認めてあげるようにしました。それなのに個性を伸ばしていく娘達をみていると、本当にこれが大事なのだと思います。教育とは、認めて父さんのここだけはいいよと言ってもらえば嬉しいところがあると思います。だから子供達をまとまらなっているのか、その姿を見せていただきたいですね。

保春院前丁 40代（公務員）

**同じ兄弟でもこんなに性格が**

兄弟3人でも各様こんなにも違うものかと思います。上の子をみて下の子がその通りやっているわけでもないし、180度違う性格なので同じように対応できない。その時その時で真剣に対応し、親の方も成長していくかないと下の子に通用しないと思う。

親というものはどこかにひとつ、間違ってもいいから、自分はこうだという信念を持っていない。どこか対応しきれない所がある。おやじ俱楽部で他人の子さんと接するが、そんな関係の中で挨拶など強制されるのではなく、お互いに自然と言葉として出てきます。今は行事だけに終わってしまっているが、積み重ねて行くうちに良い関係が生まれてくる。家庭教育に限定されるかどうか判らし、続ける必要があると思う。家庭教育に限定されるかどうか判らないが、昔は親として自信を持っていたし家族も一つの共同体。クラスも一つの共同体、一人一人が何らかの形で共同体の意識を持っている。今はバラバラに感じますが、それなら意識の中にはないかも。教育は、共に歩む場と言い換えることができるようになります。今はバラバラに感じますが、それなら意識の中にはないかも。親は自分がどんな仕事をして、どんなことをやっているのか、その姿を見せてきたいですね。

八軒小路 30代（僧侶）

**生まれて間もない我が子をまえに**

昨年末に初めての子供が誕生しました。本などで、母親はおなかに生命を宿した時から親としての自覚が生まれるが、男親はそうではないと見聞きしていましたが、本当にそうであろうかと思っていました。自分がその立場になって、生まれて抱っこして初めて親の実感を味わいました。どうやって子育てをしようか、思い悩むこの頃ですが、やはり自分の父親や母親が教育してくれたように育っていくのかなと思います。

地域の中で子供が育っていく、地域で「子供を育てる」というその事の重要さをとても感じています。

若林 20代（公務員）

**成人式を迎えて（子供の目から見た「親父」）**

今、進路について悩んでいます。大学も受験しましたが、このまま大学に行つて普通に就職してしまうことかと思うとものすごく迷ってしまったのです。自分でやりたい事を見つけてから、決めていきたいと思う。自分が何を考えているかなかなか親には言えないが、友達も沢山できるし自分で考えることもできる。親が子供に意見する時は、少しずつ論してほしい。あまり締め付けないでほしいが、やはり間違っている時は指摘してもらいたい。その子にはその子の特性や個性があるからつぶさないでほしい。何がやりたいのかじっくり聞いて、アドバイスしてくれたら助かると思う。親のことは尊敬しているし感謝しています。今だけに心配をかけていますが、父のような親になりたいと思っています。

大和町 20代（フリーター）

**20代を頭に4人姉弟・モットーは自主平等**

私の育った頃は家族が15人位もいて協力しながら商売をやっていました。父の兄弟は6人で、絶対に喧嘩をしないことを決めました。商売で一つのことを協力してやるために、皆が我慢をしなければならなかった。自分勝手にやれば、それぞれに個性を伸ばせるが、仲良くするために自分を殺すことも必要になる。昔おじいさんが「ながしんこ」とよく言った事を思い出します。中心の子という意味ですが、家庭だったら親父が中心。学校だったら校長先生の言うことが絶対なんだぞということをよく言っていました。戦後になって、皆平等と言うことになりましたが・・・。今は物が豊富になり過ぎるので、子供には何でも与えるということではなく、精神的に認めてやると言うことの方がより大切だと思います。商売をやっているとかみさんもキレることがあります。一つや二つではキレイないが、いろいろなことが重なった時、例えば、子供が病気になったり、お客様に何か酷なことを言われたりした時です。でも、なんといっても、私が認められないときにキレます。やはり旦那さんは奥さんを良く見て認めてあげて、「よくやってくれているね」の一言があればいいと思うが、心で思ってもなかなか言葉には表現できずに困っているのです・・・。

土樋 50代（自営業）

**2人の息子と可愛い3人の孫**

子育てについては、私なりに満足しています。高校までは人格として認めてはいるがまだ揺れ動いている時、親がもっと率先して導いていかないといけないと思う。高校を卒業する時はその子の努力だけれど、入学までは、親がある程度、把握しておかないと駄目だと日々感じてきました。また上のそれをしっかりと教育しておくと下の子は兄貴の姿を見て、一人前ではなく、月給をもらって初めて一人前と認めています。秋の育った頃と言うのは、今のように物のある時代ではなかったので一つの物を皆で食べなければいけなかった。その中で親父はいつもお膳の中で歴然として一品多く、一番いいところだった。そういう中で育ってきた、それが当たり前だったので、お父さんを一段高くしておきことで、家族のまとまりを得ていたように思います。息子には、夫婦は違う環境で育ったのだから、互いに10割ずつ出していたら必ずぶつかるので2割か3割、我慢が必要だと言っています。喧嘩する時は、腹が減っている時、疲れている時、お金の無い時、この3つがそろった時だと思う。共働きの時は特に家事を手伝うなどを互いに認めあって助け合わなければいけないと考えます

南小泉 60代（農業）

**まいてけさい**

**投書箱**

**親父の心の叫び**

**親の仕事を理解してくれる娘たち**

私はハッキリ言って、親に対して、全て言われたことに対して反発していました。親は私にとって反面教師でもありました。いろいろ親に期待されながら親を裏切った人生を送って、逆に自分の子供に期待を持つ事がどこかでこれは裏切られるなどいう事を前提に考えなければいけないと思う。割り切れない所もあるが、自分の育ってきた家庭の中での自分を見ているので、子供に対しては、普通の親から見るとクールだと思います。私は子供に対しては、普通の親から見るとクールだと思います。親は事業を継ぐに反発する反面、常に目的意識を持っていた。親は事業を継ぐがせたいが私は絶対に継がないと思い自分の考える方向に進みました。親が最後まで押さえ付けていたのなら、今の私はどうなっていたのか判らない。その辺りの頃が非常に難しかったのではないかと思います。自分の子供に対しては親の責任もあるのではないかと思います。自分の子供に対しては親の責任もあるので意見を言って、それに子供の意見をどちらかが難しい。子供どこで親がリーダーシップを取るのかそこら辺が難しい。子供も親を理解することが必要。親の仕事を見せるため、うち子供も親の仕事所によく連れて行ったものです。2~3日忙しくて帰らなくても事情を知っているので不安がらないのです。親は子供に何を教えていいのかわからない。ましてや今子供達は親に対して無条件に親に従うという発想がないわけだから、親は家庭の中で秩序とかコントロールしていくことが億劫になっている。やはり最小共同体のコミュニティは家庭であるべきだと思っていました。

一本杉町 40代（コンサルタント）

## ●イベントを通して考える

若林サンドフェスタ実行委員長

# 「ゴミ問題」

亀岡 幸康

昨年の夏、深沼海岸で「若林サンドフェスタ」というイベントを開催し、実行委員会として関わらせていただいた。開催当日は、老若男女、多くの参加者・協力者にご参集いただき、「一日中砂浜で楽しい時間過ごすことができた。

さて、人が集まれば当然のようにゴミが生じる。主催者側が出るゴミや、食事をしたり、包装物のゴミ、参加者が持つてきた物から出るもの、ギリがない。イベントが大きければ大きいほど、人が集まれば集まるほど、ほとんどの場合、たくさんゴミが出る。

私自身、今までもいくつかのイベントに関わる機会があったが、たいていの場合、業者に委託するしないの違いこそあれ、主催者側で責任をもつて後片付けをするのが当たり前のである。

イベントの多くが、よほど「ゴミについて考える」ことをテーマにしない限り、参加者に「ゴミ問題」を強いることはあまりないだろうと思う。

「若林サンドフェスタ」は、前身の「サンドクラフト・コンテスト」の頃から参加者・協力者全員で海浜清掃をするということと、でスタートしていたため、「イベントを行なうことによって、少しでも環境美化に貢献しよう」ということを、やはり開催趣旨の柱とした。つまり、当日集まつた人々全員でゴミを拾うことで、ゴミ拾いから「海の環境について考えよう」という企画でもあった。

残念なことではあるが、海岸で一つのゴミ袋一杯にするのに、さほど時間がかからなかつた。そ



▲写真はサンドフェスタでの清掃風景

れだけたくさんのゴミが落ちていたわけである。

ご存知のように、深沼海岸では地元の自治会や小中学校・P.T.A.・老人クラブ、企業ボランティアの方々によって、毎年数回ゴミ絶滅作戦ということで清掃作業が行なわれている。

それでもゴミは減らない。このイベントも、たくさんの人々の善意から比べたら、誠に「微力」であるが、それでも「気づき」の場にはなつてくれただろうか。

この「気づき」を、一人一人がイベント会場から家に持ち帰り、家族や友人やたくさんの人々に伝えることができて、実践できたとき、私たちの「まち」は「魅力あるまち」になるのではないだろうか。是非イベントは、単に「はしゃぐ」「楽しむ場」を提供するだけばかりではなく、「せつかく集まつただから、一緒に考えてやうよ」という「思いを伝える場」として活用されてもらいたい。

仙台市が「ポイ捨て条例」を施行して、まもなく一年になる。本来ならば、「あたりまえ」のモラルであるが、条例化してまで取り組まなければならぬ悲しい現実がある。

私たちには、次世代に少しでも良い環境を残す義務がある。ゴミ問題を考えることは、誰もが簡単にできる「まちづくり」である。

そのためには、ほんの少しでも、できることから始めに行きたいと思っている。私たちが「まち」の中の主役であつて、観客ではないのだから。

## わが消防団の活動

若林消防団副団長  
安海映一

地域のために  
がんばっています

### ●若林区まちづくり協議会総会のお知らせ●

日 時：平成12年5月25日(木) 午後2時30分～ 会 場：若林区文化センター展示ホール

#### 会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又 雄子  
猪俣 久典  
小野寺 芳郎  
枝郎  
西條

かつて、消防団員になることは、地域社会で一人前認められることでした。人々の生命財産を守る役割を負っていたからです。

現在、消防団の多くが団員不足に悩んでいます。仙台市では消防団を活性化し組織の強化拡大を図るために平成9年5月に女性消防団員を初めて採用しました。当初35名でスタートした女性消防団員はそれぞれの消防団に入団従事しており、現在では70名と輪を広げ、今後ますます活躍が期待されるところです。

さて、私たちの若林消防団は連坊、南小泉、南村、六郷、七郷(5分団)からなり団長以下390名(定員は400名)は「安心して暮らせるまちづくり」のために一致協力し、ボランティア精神で「無災害」に向けがんばっています。消防、水防、風災害、また、高齢者の救命救助の訓練、教育、教養の研修を行い、あらゆる災害に対応でき、安全確保のためにますます充実した消防団になつております。

今、地域住民の皆様一人一人の防災への意識、協力体制などを考えるべき時期にきてはいると思われます。「地域は自分で守る」の心構えを忘れずにみんなで歩んで行きましょう。

(次回は消防団についての特集です)

#### 編集後記

▼2000年を迎えた今年、会報も『はいらいん若林』として生まれ変わりました。生活しやすくより内容を高めることと仙台弁の「お入りください」をかけております。より親しみやすい紙面をと心がけてまいりたいと思いますが、「魅力あるまちづくり」のために紙面を飾るために区民の皆様からの情報・アイディアが必須です。ぜひお手をおよせください。

▼前回の特集に関連して、上飯田のS.Tさんから社会学級の思い出などについておたよりをいただきました。ありがとうございます。

若林区まちづくり協議会ホームページ「伊達なまち若林」もよろしく  
<http://www.comminet.or.jp/people/sinmoriw/>  
(sinmoriw@sh.comminet.or.jp)

若林区まちづくり協議会  
事務局／若林区役所まちづくり推進課  
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1 TEL282-1111